



おぐら 尾倉 <校訓>
自主
創造
協力



令和3年5月28日(金)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
- ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
- ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー



ついて評価する声がある。

○ その一方で、生徒のつまづきを把握する上で「知識」と「活用」とを一体的に問うことが有効な場面もあり、これまでの調査問題においても、実生活の場面への活用を想定する中で知識を問うA問題や、大問における思考過程として知識に関する小問を問うB問題など、A・Bの問題区分が絶対的なものではなくりつつある状況も見られる。

【調査問題の在り方の見直しの方向】

○ 平成29年3月公示の学習指導要領は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱が相互に関係し合いながら育成されるという考え方に立っている。

○ こうしたことから、平成31年度以降の調査の問題作成に当たっては、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、A問題とB問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問うこととする。

○ 具体的には、国語、数学については、日常生活の場面と関連付けられた設定の下、内容のままりに対応する大問の中で複数の小問が展開する構成とすることなどにより、自然に調査問題に表された学習過程に沿って解くことができる出題とすることなどが考えられる。

○ なお、従来A問題の中で測られてきた基礎的な知識・技能は、新しい学習指導要領においても育成すべき資質・能力として重要であるため、生徒の学力・学習状況として今後も把握する必要があり、今回の見直し後においても、問題を精選したうえで、調査問題の大問の中の小問の1つとして出題するなど工夫することとする。

【調査問題の意義・メッセージ性】

○ このような調査問題により調査を実施することによって、各教育委員会や各学校に対して、学習指導要領に示される内容等を正しく理解するよう促すとともに重視される力を子供たちに身に付けさせるといった国としての具体的なメッセージを示すこととなる。

○ 各教科の具体的な調査問題の作成に当たっては、調査問題自体が学校の教員や生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであることを踏まえ、学習指導要領の下での授業改善に資するものとなるよう、実際に授業する場面を十分に意識するとともに、生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つものとするとの視点から検討を行う。

令和3年度 全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるものです。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

調査結果は後日配付されますが、ご家庭でも今後の勉強にどう生かしていくか参考にしてください(結果の配付については担任よりお知らせします)。学校でも家庭でも単なる“テスト”としてとらえるのではなく、小学校・中学校段階から学校・家庭が課題を発見し、「生きる力」へとつなげていく必要がある調査です。以下、文部科学省、国立教育政策研究所の全国学力・学習状況調査に関する内容を紹介します。

●調査事項

*中学校調査は、国語及び数学とし、出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

◆調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

*調査する学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

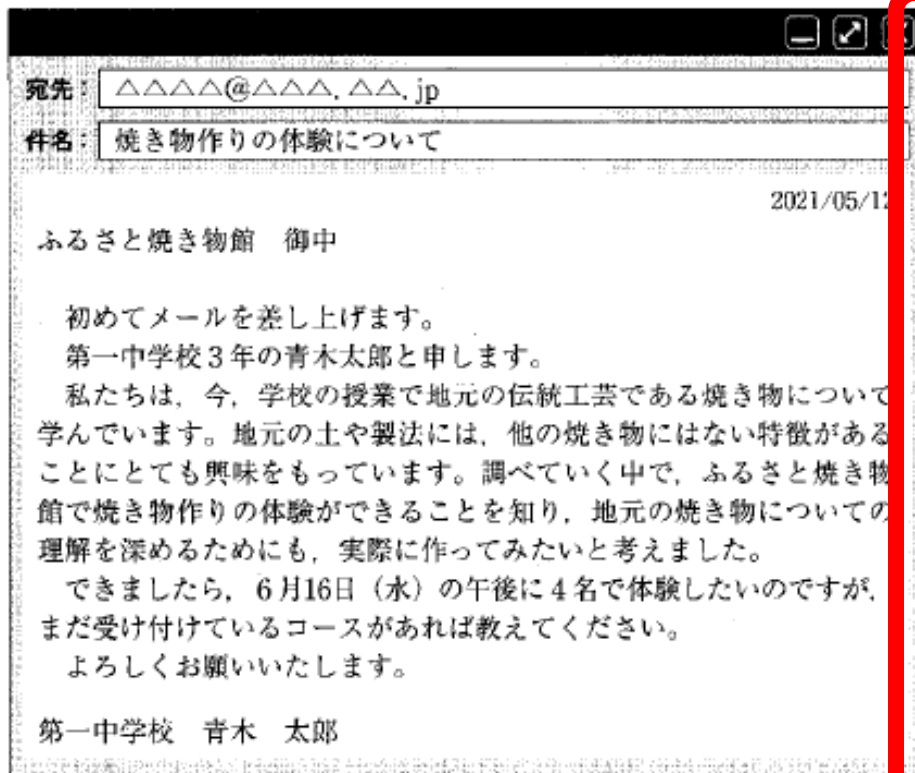
●知識・活用を一体的に問う調査問題の在り方について(国立教育政策研究所)

【これまでの経緯と調査問題の現状】

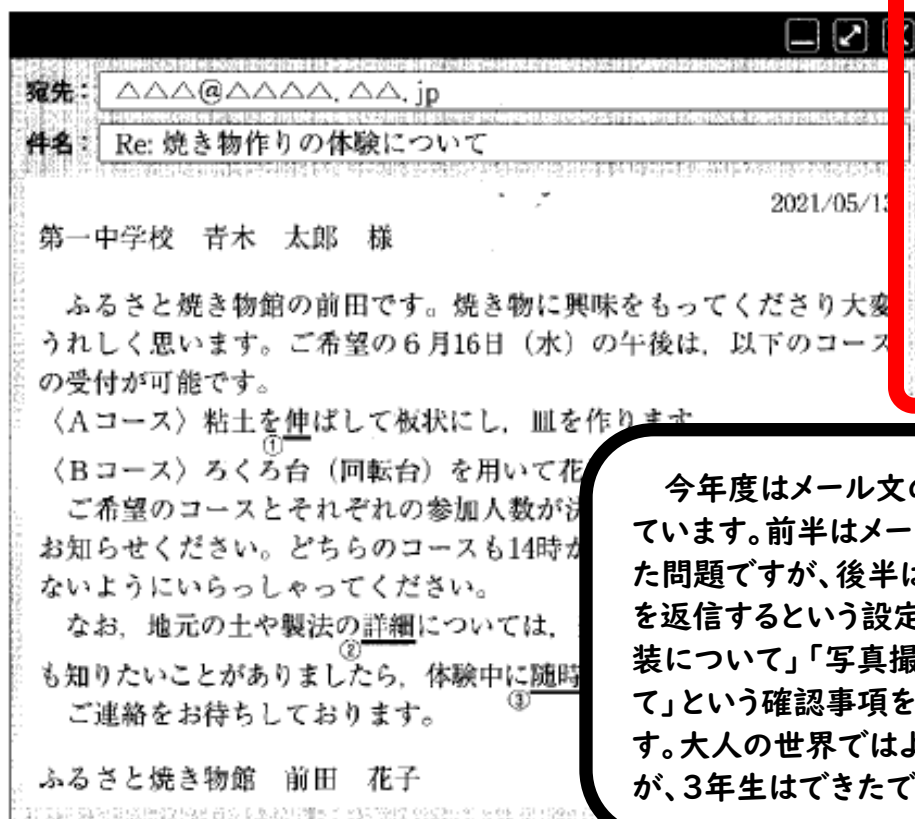
- 全国学力・学習状況調査においては、教科に関する調査問題作成の基本理念として、主として「知識」に関するA問題と、主として「活用」に関するB問題とに整理してきた。
- この整理については、A問題を通じて学力の底上げが図られたことや、B問題を通じて授業改善の取組が学校現場に広がったことなど、知識と活用を分けた調査が果たしてきた一定の役割に

全国学力・学習状況調査が終わりました。3年生の皆さん、どうでしたか？国語では漢字や言葉の意味、数学では計算が基本となります。しかし、このような全国学力・学習状況調査や福岡県の公立入試では、文章を読み取りながら(読み取って)解答する問題になります。普段から理由や自分の考えを書くことが大切です。





青木さんが送信した「二回目のメール」



「担当者からの返信メール」

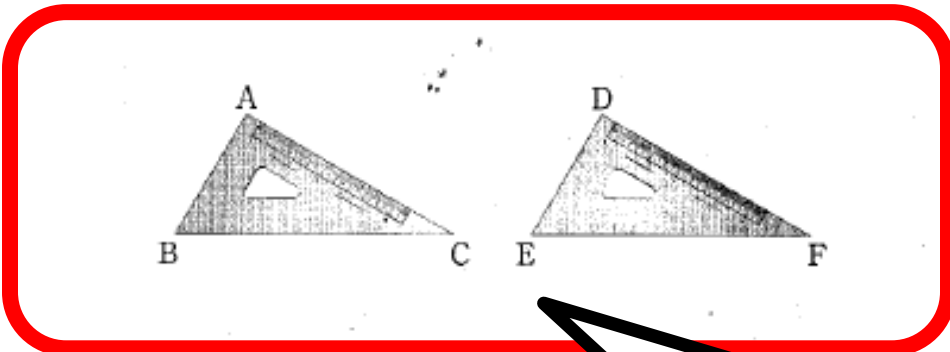
4

総合的な学習の時間で、地元の伝統工芸である「焼き物」について調べている青木さんのグループは、焼き物作りの体験をしたいと考え、担当者へメールのやりとりをしています。次は、青木さんが担当者に返信する「二回目のメールの下書き」です。これらを読んで

今年度はメール文の問題が出題されています。前半はメール文の内容に沿った問題ですが、後半は2回目のメール文を返信するという設定で、「持ち物と服装について」「写真撮影の許可について」という確認事項を書かせる問題です。大人の世界ではよく使う表現ですが、3年生はできたでしょうか？

9

30°、60°、90°の同じ三角定規を2つ用意し、それぞれ△ABC、△DEFとします。直輝さんと由衣さんは、この2つの三角定規を組み合わせてできる四角形について考えることにしました。



二人は、2つの三角定規を右の図1のように、点Aと点F、点Cと点Dが重なるように並べました。このとき、四角形ABCEができます。

次に、図2のように、点Dが辺BC上にあり、辺EFが辺BCと平行になるように、△DEFを△ABCに重ねました。辺ABと辺FD、辺EDと辺ACの交点をそれぞれ点P、Qとすると、四角形APDQができます。

そして、図3のように、点Dが辺BC上にあり、辺EFが辺BCと平行になるように、△DEFを左に動かしました。

普段から使っている2つの三角定規を組み合わせて考えさせる問題です。後半は直角二等辺三角形の定規を組み合わせた問題になっています。問題はただ、角度を求めさせるだけでなく、「直輝さん」と「由衣さん」の会話文から考える問題もあります。

